

減反廃止と小農切り捨て 「ローソン農政」は必ず破たんする

自民党は25日に開いた農林水産戦略調査会・農林部会・農業基本政策検討PT合同会議で「日本型直接支払い」の検討と経営所得安定対策の見直し議論に入りました。

それに先立ち24日に開かれた産業競争力会議農業分科会で、同分科会主査の新浪剛史ロ

ーソン社長は平成28年度から米の生産調整を廃止し、来年度から10㌔あたり1万5千円の直接支払交付金と、米価下落分を補てんする交付金は廃止するなど、農政改革案を提言しました。

政府、自民党の検討では、2018(平30)年をめどにコメの生産調整(減反)を廃止し、コメ農家への補助金は来年度から4割以上の削減(減反)を廃止し、

農家に絞って支給し、中小農家への補助金はゼロにする内容です。

米価暴落歯止めなし

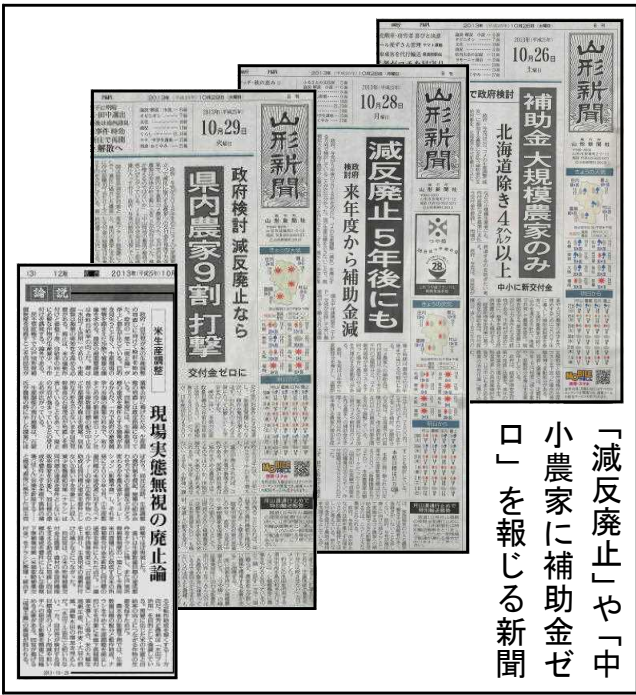
MA米は山形県のコメ生産量40万トの倍近い年間77万トも輸入し、コメ過剰のもとで減反を廃止すれば米価の暴落に歯止めがなくなります。

さらに補助金をカットしてコストの高い小規模農家にコメづくりを止めさせ、大規模農家だけを残すというなら、多様な家族農業で支えられてきた日本の農村社会は根底から崩壊します。

再び「地方の反乱」

農政の最大の目的は「食料自給率の向上」

「減反廃止」や「中小農家に補助金ゼロ」を報じる新聞



と「農村社会の持続的発展」にあり、その両方をつぶすような「ローソン農政」は必ず破たんします。

自民党がTPP年内妥結を見越して中小農家の切り捨てを強行するならば、再び「地方の反乱」は避けられませ

平形(ひらかた・藤島地区)

大沼 浩

藤島川の西岸に上平形、下平形の二集落、小字元平形があります。藤島町史では旧名が平賀、平賀は蝦夷語ピリカー美(から)としています。地名のひらかた、姓氏のひらがはほかにあるのも、藤島平形の起源ははっきりしません。

蝦夷語「アイヌ語では、ピリカよりもピラカー崖の上」が近く、藤島川の切り岸が当たるかもしれない。しかし「た」が説明できません。

町史は「土地高燥風土明媚」といいますが、地名は植物とか地形といった地標が起源になるのが普通で、美しいでは漠然としています。アイヌ語ピラー崖はジョン・バチエラーが注目して、内村鑑三も取り上げています。琵琶湖西岸の比良山地の比良には険しい崖という説があります。しかし平形は、山形、道形のように、形は方

周辺ほどの意味で、平地が広がるかと思われ

住宅リフォーム支援は

10月21日受付終了

平成25年度の鶴岡市住宅リフォーム支援事業補助金は10月21日、予算枠上限に達したため、受付が終了しました。

前年度は1月末締切りでしたが、制度が周知され、活用が早まった結果と見られます。25年度の補助最終件数は506件で補助額は1億1336万2千円(当初予算8600万円、6月補正3016万円、合計1億16万円)でした。補助対象工事費は15億円に上っています。1件当たりの平均補助額は22万4036円、平均対象工事費は29万8千1600円となっています。

この制度は山形県住宅リフォーム総合補助制度を活用し、県補助額の鶴岡市分は9542万円となつてい

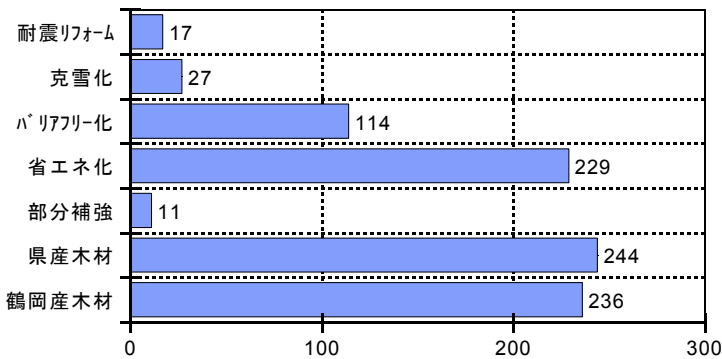
ます。すでに酒田(県補助額5千万円、全体1億円)は7月1日に終了し、庄内町(1850万円)でも9月9日に募集を締め切っています。

鶴岡市住宅リフォーム利用状況の集計(25年度)10月28日現在 市建築課

住宅リフォーム助成集計	一般リフォーム				②耐震リフォーム(内、13件は一般リフォームと件数重複、金額は耐震のみ)	①+②合計
	①一般リフォーム計	鶴岡市上乗せ補助分		上乗せ補助以外分		
		内、鶴岡木材分	内、中古住宅分			
補助申請最終件数	502件	236件	7件	259件	17件	506件
申請補助額	1億409万円	6697万円	203万円	3507万円	926万円	1億1336万円
補助対象工事費	14億6444万円	10億2363万円	2507万円	4億1573万円	4億4248万円	15億869万円
平均補助額	20万7千円/件	28万3千円/件	29万1千円/件	13万5千円/件	54万5千円/件	22万4千円/件
平均対象工事費	291万7千円/件	433万7千円/件	358万2千円/件	160万5千円/件	260万2千円/件	298万1千円/件

※平成25年度予算は、当初8,600万円、6月補正で3,016万円追加し1億1,616万円
※平成24年度予算は、当初6,000万円、9月補正で3,174万円追加し9,174万円

要件工事の種類(重複集計)



ふじしま秋まつり
(10/27藤島体育館)



世中はどんどこ直るどんどこ哉 一茶
—「しんぶん赤旗」を読んで 青山 崇

しんぶん赤旗10月8

の座談をしていただいた

日付「学問・文化」〈朝の風〉の青木美智男著『小林一茶—時代を詠んだ俳諧師』(岩波新書)が目に残る。青木氏は昨年講演で来鶴の折特に願って幕末・維新

一茶の別の特徴を上げていると評価。

一茶が生きた時代は、

文化文政期という1800年前後の50年間ほどの時期である。本居宣長らの国学に傾倒し日本を神国と詠み、「君が世は乞食の家ものほり哉」、秦平で乞食の家にも鯉のぼりが建つほどと徳川(君)の世を謳歌している。しかし一茶はこのような句を詠まなくなり、起り始めた飢饉・百姓一揆・打ちこわしなど現実社会とのギャップに苦悩す

る。一茶が詠んだ「世直し」は史上いわれる体制変革ではない。「世が

直る」の意味で夏の好天や慈雨で豊作になることなどである。「夕顔や世直し雨のさばさばと」。しかし、自分の悲惨な生活と時代の矛盾に苦しむ弱き人びとの生活を重ね、「世直し願望」を詠んだところに共鳴する。(蛇足「尾張名古屋はシロでもつ」のシロは城でなく、一茶と同時代、名古屋の俳諧師・井上士朗(シロ)のことを蕪村が言ったという)



政党助成金

▼去年の政党助成金は320億円弱だったそう。95年に制度を創ってから今年7月までの額は5836億円になるという。

▼それは企業・団体献金を止めるからその代りとして創ったものだが、国民をダメして一向に止める気がない。

▼去年の使い方が公表されたが、なかなか国民の眼にはつかない。

▼貴ったのは11党というが数えられない。当然だ。金を掴んで今は消えた党が多いからだ。

▼金を掴んで消えたのは国民新党・新党きづな・太陽の党・新党日本・新党大地の5つ。残りの6つは民主党・自民党・公明党・みんなの党・社民党・新党改革(共に額が大きい順)。そう言えばそんな名前もあつたけなーというところもチャント掴んでいたのだ。

▼さて使い道だが、総選挙があつたので選挙関係と宣伝事業費が総額の31・7%になるという。だから国民の税金で選挙をしたことになる。

▼自民党は供託金に20億円近くも使い、民主党は公認料として1人500万円づつで13億円チョットを出したという。あの頃のテレビコマーシャルも国民の税金だったのだろう。

▼しかしそれでも全部は使い切れない。残りには国庫に返すことになつてはいるが、基金にしてもよいというニゲミチがあり、返す党はどこもないのだ。

▼その基金も去年使った額より多額の党もあるぜ。もつとヒドイのは、名前の消えた党にも基金があることだ。

▼年金を削り老人をイジメながらこれだぜ。日本共産党がこんな金を貰っていないのは、ご存知の通りです。

(石川)

清流の音を離れず晩稲刈る

工藤 博司



(画・加藤貞雄)

来る節はもう、晩稲(おくて)も刈り終る頃である。月山、鳥海山に初冠雪があり、白鳥の飛来も盛んである。その後に来るきびしいものを待つばかりである。稲刈りは、山間部ほどおそくなるが、村落を貫く清流のそばで、一日がかりで稲を刈る姿には、一年の苦勞がしのばれるだけに、一面清々しさと安堵を覚える。

ものの、価格が下落傾向にあり、またしても農家の苦悩は深まる。それに加え、TPP交渉での、米などの農産物重要五品目についても関連品の関税ゼロに同じようとする自公政権の姿勢には怒りを禁じ得ない。関連品の関税ゼロが、主原料である米や小麦などに連動することは明らかで、やはり交渉からの撤退しかない。